令和7年度〔 自己評価報告書 〕

学校番号	学 校 名	校 長 名
1	川崎市立殿町小学校	紙屋　智子

学 校 教 育 目 標	今年度の重点目標
・健康で、心情豊かな子　・勤労を愛し、進んで働く子 ・人を尊重し、協力できる子　・地域に親しみ、地域を愛する子 ・自分で考え、工夫する子	○学ぶことの楽しさや意義が実感できる「分かる」授業づくり ○気持ちのよい挨拶や言葉が通い合う温かい学校づくり

	評 価 項 目	具 体 的 な 取 組	成 果 と 課 題	具 体 的 な 改 善 策
1	自分の力で考え、目標に向かって粘り強く取り組む態度の育成	・算数科を中心とした授業研究、日常的にどの教科でも意識して活動（児童の言葉を生かした課題づくり、学んだことを活用した問題解決、自力思考の確保、個別支援、他者との協働による理解など）	・既習を活用する、友達の考えを理解する等の活動を通して、考えを書いたり、伝え合ったりして思考力が向上している。どう表現してよいかわからずに、伝えることに苦手意識をもつ児童もいる。	・様々な教科や行事等で表現する場を設け、表現方法を指導していく。最初は言い方を示したり、短い言葉で伝えたりすることを通して自信をもたせる。問題解決に向けて自分なりに表現していけるよう支援していく。
2	学ぶことの楽しさや意義が実感できる「分かる」授業づくり	・専科指導、交換授業、複数指導（国際教室担当、支援教育コーディネーター）による協力体制の充実	・わかったことを伝えるだけでなく、何がわからないかを伝えることで、多くの児童が授業に参加することを目指し、学ぶ楽しさを感じることができた。「わかった」と実感できない児童に対する支援が必要である。	・どの教科でも児童の困り感を大切にし、他者と関わりながら問題解決し、理解を深める。交換授業や専科教員など複数の教員で児童の実態を把握し、支援していく。
3	「個に応じた指導」「協働的な学び」の一層の充実	・「ギガとの」を活用した考えの共有、学びあい、学習の蓄積、自分のペースで問題に取り組むこと（学年ごとに段階を踏んで活用）	・各学年に応じて情報収集や考えの共有、発表の道具として活用している。個々の学習では学習と関係のないものの検索や閲覧が行われることがある。	・各学年で身につけたい能力を明確にし、活用の充実を図る。また、情報リテラシーについて毎年指導し、適切にGIGA端末を活用し、主体的に学習が進められる力をつけていく。
4	健康・安全・防災への意識の向上	・養護教諭や栄養士との授業（睡眠、食事、体の成長等） ・避難訓練（引き取り訓練、地震・津波・火災、防犯） ・地域の方と協力した見守り	・健康な体づくり・防災の意識は高まっている。自ら考えて生活を見直したり、自分の身を守ったりする行動が取れるように指導していく。	・今年度同様、健康な体作りに関する授業や様々な想定の避難訓練を行い、意識をより高める。生活を振り返る、災害時の行動を考える機会を設けていく。
5	人権尊重教育を基盤とした、よりよい人間関係づくり	・委員会活動、クラブ活動、係活動、当番活動などの活躍の場 ・クラスをよりよくするための特別活動の実施 ・共生＊共育プログラムの実施	・クラスや学校でより快適に過ごすための活動や楽しくするための活動のどちらも意欲的に取り組む姿が見られた。	・学校生活をよりよくするための創造的な活動を増やしていく。児童の思いを大切にし、実現していけるよう支援する。
6	気持ちのよい挨拶や言葉が通い合う温かい学校づくり	・朝会において生活目標の発表、生活目標の振り返り ・生活アンケートによる児童の実態把握 ・代表委員会から「いじめダメ」の呼びかけ ・「SOSの出し方・受け止め方」についての授業	・挨拶や言葉について意識が高まっている。6年生が問題意識をもって朝の挨拶運動を行ったおかげで気持ちのよい挨拶が増えた。	・個人差があるので、学校全体で挨拶を習慣化できるよう継続して指導する。今年度のような児童の自主的な活動を促していきたい。
7	将来の社会的自立に向けて必要な能力や態度の育成	・「特別な教科道徳」授業の充実 ・全教育活動において、道徳性の実践を促進	・「きまりを守る」「人にやさしくする」など道徳性について意識が高い。きまりを守るように声をかけ合ったり、やさしい言葉を友達や下級生にかけたりする姿が見られた。	・道徳の授業を中心に、道徳的価値について考えたり、教育活動全般で実践したりできるように計画、実施していく。
8	地域の教育力や学習環境を活用した特色ある教育活動の推進	・1年生昔遊び、2年生町探検、3年生多文化ふれあい、とのまち太鼓、各学年の校外学習、6年生昔の殿町の様子に関する話、日本文化体験、全学年読み聞かせ	・外部講師や地域の方による学習活動について、児童も保護者の方々も90％以上が効果を感じている。地域の方とのふれあいにつながった。	・今後も体験的な学習や外部講師による学習を計画し継続していく。学習の目的を明確にし、児童の意欲を高めたり、理解を深めたりできるよう見直していく。

学 校 関 係 者 の 評 価	学校運営のまとめ
・放課後公園やこども文化センターで男女仲良く遊んでいる姿をよく見かける。 ・登校班で交通ルールを守って登校している。 ・6年生の「10年後も殿町に残しておきたいSDGs」の発表を聞いた。よく考えられていた。今後この思いを広め、活動していってほしい。 ・時折言葉遣いが悪いのが気になる。 ・自転車の二人乗りをしている場面を見かけることもある。自転車の事故が多いので気をつけてほしい。	・わからないことをわからないと言える学級の雰囲気づくり、それをみんなで粘り強く解決していこうとする授業づくりを今後も行っていきたい。授業への参加意識を高め、自己有用感をもつことで、学ぶ楽しさや「わかった」「できた」と感じられる児童が増えていくと考えている。 ・あいさつややさしい言葉遣いは、将来子どもたちが良好な人間関係を築いたり、社会で活動したりするときに必要な力である。習慣化するには時間がかかるので、学校、家庭、地域で協力して育んでいきたい。 ・相談体制については、昨年より評価が高くなっている。今後も困ったときに相談しやすい体制づくりに努める。